

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

NFC所蔵外国映画選集

フランス古典映画への誘い

Invitation to French Cinema Classics:
From the National Film Center Collection

6月6日(火) - 7月2日(日)

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター, 東京日仏学院

6月の休館日:

月曜日, 6月1日(木) - 5日(月)

大ホール

開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制)

発券=2階受付

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円

●観覧券は当日・当該回にのみ有効です。

●発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切となります。

●シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

●発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



フランス古典映画

いざな
への誘い

Invitation au
Cinéma Classique Français

2006

6

NFCカレンダー
2006年6月号

大ホール 上映作品

NFC所蔵外国映画選集
フランス古典映画への誘い
Invitation to French Cinema Classics:
From the National Film Center Collection

フランス映画は、日本の映画愛好者にとって特別な位置を占めてきました。それぞれの時代に映画芸術を革新し、その魅力を世界に向けて発信してきたフランス映画は、日本でも長きにわたって高い評価と人気を得て現在に至っています。

この度フィルムセンターは、さまざまな切り口で新旧のフランス映画を紹介してきた東京日仏学院と共催して、フランス映画のクラシック作品を紹介する上映企画「フランス古典映画への誘い」を開催することとなりました。フィルムセンターの所蔵作品の中から23本の長篇と11本の短篇を選び、無声時代に探究されたアヴァンギャルド映画、ルネ・クレールやジャック・フェデー、マルセル・カルネ、ジュリアン・デュヴィヴィエといった監督が日本でも知名度を得た1930年代のトーキー作品、その繊細な言葉遣いを継承した戦後の芳醇な文芸映画、アンリ・ジョルジュ・クルーゾーやジャン・ピエール・メルヴィルの両監督にそれぞれ代表されるサスペンス映画や犯罪映画、さらに若き批評家たちが表現者として立ち上がったヌーヴェル・ヴァーグの監督の作品まで、多彩な傾向の作品を用意してお待ち申し上げます。

フィルムセンターでの上映の後、これに継続して東京・飯田橋の東京日仏学院でも「フランス古典映画への誘い パリのアパートマンから見たフランス映画史」を共同開催いたします。併せてお楽しみください。

- ①=監督 ②=原作・原案 ③=脚本 ④=撮影 ⑤=美術 ⑥=音楽 ⑦=出演
- 本特集には不完全なプリントが含まれています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

1 6/6(火)3:00pm 7/2(日)1:00pm

フランス前衛映画選集(計102分)

チューブ博士の狂気(14分・18fps・35mm・無声・白黒)
LA FOLIE DU DOCTEUR TUBE

画面の歪曲効果をユーモラスに用いた巨匠アベル・ガンスの初期作品。奇想あふれるコメディながら、高級な芸術映画を志向したフィルム・ダール社の製作である。
*15 ⑤アベル・ガンス ⑥レオナス=アンリ・ビュレル ⑦アルベール・デュドネ

ほほむブーデ夫人(28分・24fps・35mm・無声・白黒)
LA SOURIANTE MADAME BEUDET

女性監督デュラクが当時の戯曲を映画化した作品だが、心理描写に画面のデフォルメや高速度撮影などの技法が援用された。夫を演じるアルキエールは、『ジゴマ』(1911年)の怪人ジゴマ役で知られる俳優。
*23 ⑤ジェルメーヌ・デュラク ⑥ドゥニ・アミエル ⑦アンドレ・オベイ ⑧アメド・モラン ⑨ジェルメーヌ・デルモズ、アレクサンドル・アルキエール、マドレーヌ・ギティ

バレエ・メカニク(11分・24fps・35mm・無声・白黒)
BALLET MÉCANIQUE

キュビズム画家レジェによる純粋映画で、図形や機械、日用品、マネキン人形、階段を登る洗濯女などのイメージをリズムカルに重ねている。頻出する女性の顔のアップは、絵画のモデルとして著名なキキ。
*24 ⑤フェルナン・レジェ ⑥ダドリー・マーフィ

幕間(19分・18fps・35mm・無声・白黒)
ENTR'ACTE

前衛芸術界の名士たちが出演したアヴァンギャルド映画の象徴的な一本で、チェスをしているのがマン・レイとデュシャン。飛び跳ねながら大砲を撃つ人々、バレリーナのように踊るヒゲ男など、脈絡を欠いた映像が自在に連なる。スウェーデンの即興バレエ「体演」の「幕間」に上映されたルネ・クレールの第2作。
*24 ⑤ルネ・クレール ⑥フランシス・ピカビア ⑦ジミー・ベルリエ ⑧ジャン・ポルラン、マン・レイ、マルセル・デュシャン、インゲ・フリース、ジョルジュ・オーリック、エリック・サティ

純粋映画の五分間(5分・18fps・35mm・無声・白黒)
CINQ MINUTES DE CINÉMA PUR

ルネ・クレールの実兄アンリ・ショメットによる純粋映画で、幾何学的な発想からガラス細工や木々などを捉えている。
*26 ⑤アンリ・ショメット

貝殻と僧侶(14分・24fps・35mm・無声・白黒)
LA COQUILLE ET LE CLERGYMAN

デュラクが残したシュールレアリスム映画の代表作で、首を絞められた男の顔が左右にざっくり割れるショットが有名。ジェニカ・アタナシウは詩人アルトーの恋人として有名な女優で、『燈台守』にも出演している。
*27 ⑤ジェルメーヌ・デュラク ⑥アントナン・アルトー ⑦ジョルジュ・ベリナル ⑧アレックス・アラン、ジェニカ・アタナシウ、リュシアン・パタユ

塔(11分・24fps・35mm・無声・白黒)
LA TOUR

パリのエッフェル塔を縦横に捉えたルネ・クレール作品で、しばしば“レース編み”とも表現される美しい鉄骨組みを強調している。
*28 ⑤ルネ・クレール ⑥ジョルジュ・ベリナル、ニコラ・ルダコフ

2 6/6(火)7:00pm 6/25(日)4:00pm

ぶどう月(149分・18fps・35mm・無声・白黒)
VENDEMIARE

第1次世界大戦中、一人の傷痍軍人が自分のぶどう農園に占領地の難民を受け入れるが、そこへベルギー人に入れた2人のドイツ人が紛れてくる…。連続活劇の王ルネ・フィヤードが、自らの生まれた南仏ラングドック地方を舞台に、祖国愛を訴えた大作。題名は、ぶどうの収穫期を示すフランス革命暦の月の名前。
*18 ⑤ルネ・フィヤード ⑥レオン・クロース、モリス・シャンブル ⑦ルネ・クレステ、エドゥアル・マテ、ルイ・ルーバス、ガストン・ミシェル、ジョルジュ・ビスコ、マリー・ハラルド

3 6/7(水)3:00pm 6/20(火)7:00pm

イタリアの麦藁帽子
(122分・16fps・35mm・無声・白黒)
UN CHÂPEAU DE PAILLE D'ITALIE

結婚式を前にした花婿の馬が、女性の帽子を食いちぎってしまったことから巻き起こる軽妙な追っかけ劇。ルネ・クレールの洒落なセンスが発揮された無声時代後期の秀作で、亡命ロシア人の製作会社アラバトロスの手で実現した。プレジヤンは『巴里の屋根の下』(1930年)で知られるクレール組の常連、チェホヴァは文豪チェーホフの姪で、ドイツ映画に多く出演している。
*27 ⑤ルネ・クレール ⑥ウジェーヌ・ラビッシュ、マルク・ミシェル ⑦モリス・デファシオ、ニコラ・ルダコフ ⑧ラザール・メルソン ⑨アルベール・プレジヤン、オルガ・チェホヴァ、マリー・マヤ、アリス・ティン、アレクシス・ボンディレフ

4 6/7(水)7:00pm 6/24(土)1:00pm

のらくら兵(130分・16fps・35mm・無声・白黒)
TIRE AU FLANC

いやいや軍隊に入れられた詩人と召使の巻き起こすドタバタ騒動を描き、若きトリュフォーに「フランスでつくられた最も愉快な映画の一本」と言わしめた傑作喜劇。のちに『素晴らしき放浪者』(1932年)で協力する怪優ミシェル・シモンにルノワールが「出会った最初の作品で、主人と召使とメイドというルノワール好みの人物設定もすでに見られる。
*28 ⑤ジャン・ルノワール ⑥クロード・エイマン、アルベルト・カヴァンカン ⑦ほか ⑧ジャン・バシュレ ⑨エーリク・オース ⑩ジョルジュ・ボミエス、ミシェル・シモン、フリデット・ファトン、フェリックス・ウダール、ジャンヌ・ヘルブリング

5 6/8(木)3:00pm 6/25(日)1:00pm

燈台守(82分・18fps・35mm・無声・染色)
GARDIENS DE PHARE

狂犬病にかかって苦悶する小島の燈台守をめぐる悲劇で、前衛、ドキュメンタリー、商業映画を自在に横断した映画作家ジャン・グレミヨンの無声作品。“水のシネアスト”とも呼ばれたグレミヨンらしく荒れた海の表現は印象深く、また、職業人の任務遂行も彼の作品に頻出するテーマと言える。日本で発見された染色版の復元プリントを上映する。
*29 ⑤ジャン・グレミヨン ⑥ポール・オーティエ、クロモン ⑦ジャック・フェデー ⑧ジョルジュ・ベリナル ⑨ほか ⑩アンドレ・バルザック ⑪ジェニカ・アタナシウ、ガブリエル・フォンタン、ジェイモン・ヴィタル、ポール・フロメ

6 6/8(木)7:00pm 6/20(火)3:00pm

巴里の暗黒街(85分・35mm・白黒)
AU NOM DE LA LOI

調査中に消された刑事の仇を取ろうと、パリ警察の仲間が麻薬密輸団との闘いに乗り出すさまをメランコリックな画調で描き出したモリス・トゥールヌール作品。無声時代のアメリカで活躍し、フランス帰国後は主に犯罪映画に才を示したトゥールヌールは、アメリカ映画『キャット・ピープル』(1942年)などで知られる監督ジャック・ターナーの父でもある。
*32 ⑤モリス・トゥールヌール ⑥ポール・ブラン ⑦ギョエルジュ・ブノワ ⑧ジャック・コロンビエ ⑨マルセル・シャンタル、ガブリエル・ガブリオ、シャルル・ヴァネル、ジャン・マルシャ

7 6/9(金)3:00pm 6/21(水)7:00pm

外人部隊(104分・35mm・白黒)
LE GRAND JEU

愛人のために人生に失敗した男が、虚無の心を胸に地獄の外人部隊に身を投じるが、そこで待っていたもう一つの恋が男をさらなる虚無へと導いてゆく…。二役を演じたマリー・ベルは監督のフェデーと同じベルギー出身で、デュヴィヴィエの『舞踏会の手帖』(1937年)でも名高い。監督夫人のロゼーが演じる貫禄ある宿屋の主人も、この映画を輝かせている役柄であらう。
*33 ⑤ジャック・フェデー ⑥シャルル・スパーク ⑦ハリ・ストラドリング ⑧ラザール・メルソン ⑨ハンス・アイスラー ⑩マリー・ベル、ピエール・リシャール ⑪ヴルム、シャルル・ヴァネル、フランソワーズ・ロゼー、ジョルジュ・ピトエフ

8 6/9(金)7:00pm 6/22(木)3:00pm

最後の億万長者(89分・35mm・白黒)
LE DERNIER MILLIARDAIRE

億万長者を名乗るバンコなる男が、恐慌にあえぐ架空の国カジナリオに乗っ取って独裁者になってしまいが…。設定の一部が当時のドイツ政府を皮肉っており、また頭に痛打を受けたバンコがデラマな法令を乱発するなど、悪乗りを利かせた笑いも多い。ルネ・クレールの戦前フランスでの最終作となった風刺コメディ。
*34 ⑤ルネ・クレール ⑥ルドルフ・マテ ⑦リュシアン・アゲタン、リュシアン・カレ ⑧モリス・ジョベール ⑨マックス・デアリー、ルネ・サンシール、マルト・メロ、ジョゼ・ノグロ、レイモン・コルディ、ポール・オリヴィエ

9 6/10(土)1:00pm 6/21(水)3:00pm

商船テナシチー(73分・35mm・白黒)
LE PAQUEBOT TENACITY

新天地カナダへの船が出る港町ル・アーヴルで、故障船の修理を待つ間、未来への不安を抱える二人の男が一人の女性に恋をする。しっとりした情緒が当時の日本人の感性に合致して『キネマ旬報』誌の外国映画部門1位に輝き、日本人のデュヴィヴィエへの熱狂を象徴する作品となった。
*34 ⑥ジュリアン・デュヴィヴィエ ⑦シャルル・ヴィルドラック ⑧ニコラ・エイエ、アルマン・ティラール、クリスチャン・マトラス ⑨ジャック・クロース ⑩ジャン・ヴィエニール ⑪マリー・グロリー、アルベール・プレジヤン、ユベール・プレリエ

10 6/10(土)4:00pm 6/22(木)7:00pm

ジェニイの家(89分・35mm・白黒) JENNY

パリでも評判のナイトクラブの女主人が、英国帰りの愛娘が自分の若い“ツツバメ”に恋したことを知り、三者三様、心の葛藤に苛まれる。ジャック・フェデーの助監督だったマルセル・カルネのデビュー作で、詩人のアレグゼールが台詞の執筆に参加、やがて『天井桟敷の人々』(1945年)へとつながる協力の始まりとなった。
*36 ⑤マルセル・カルネ ⑥ビエール・ロシェ ⑦ジャック・プレヴェール、ジャック・コンスタン ⑧ロジェ・ユベール ⑨ジャン・ドール ⑩ジャン・コスマ、リオネル・カゾー ⑪フランソワーズ・ロゼー、アルベール・プレジヤン、シャルル・ヴァネル、ジャン・ルイ・パロー、ロラン・トゥータン、リゼット・ランヴァン



ジェニイの家

11 6/11(日)1:00pm 6/23(金)3:00pm

パシフィック231 (9分・35mm・白黒)
PACIFIC 231

映画学者ジャン・ミトリが、蒸気機関車の疾走に現代音楽作曲家オネゲルの曲を重ね合わせ、映画におけるリズムの問題を探究した短篇。
'48(原)ミトリ(脚)マルク・デュクロー(監)アンドレ・タディエ(監)アルチュール・オネゲル

たそがれの女心 (99分・35mm・白黒)
MADAME DE...

夫からもったイヤリングを内緒で売り払った貴婦人。それはやがて夫の情婦へ、貴婦人を想う男爵へと持ち主を変え…。オファルス作品ならではの流麗なカメラに乗って窓のデカダンスが廻り始める。イタリアの名監督デ・シーカが演じた美貌の男爵も忘れたい。

'53(監)マックス・オファルス(脚)レイズ・ド・ヴィルモラン(監)マルセル・アンジャール、アネット・ヴァドマン(脚)クリスチャン・マトラス(監)ジャン・ドール(脚)ジョルジュ・ヴァン・パリシ、オスカー・ストラウス(脚)ダニエル・ダリュー、シャルル・ボワイエ、ヴィットリオ・デ・シーカ、ジャン・ドビュクール、リア・ディレオ

12 6/11(日)4:00pm 6/27(火)3:00pm

赤い風船 (33分・35mm・カラー)
LE BALLON ROUGE

街灯にひっかかっていた風船と小さな男の子の心の触れあいを描き、“空の映画詩人”ラモリスの名を知らしめたシネポエム。主演は5歳になる監督の子息。

'55(監)アルベール・ラモリス(脚)エドモン・セシャン(脚)モーリス・ルルー(脚)パスカル・ラモリス、シュザンヌ・クルーチエ

陽気なドン・カミロ (107分・35mm・白黒)
LE PETIT MONDE DE DON CAMILLO

共産党員の町長とカトリックの司祭が対立しているイタリアの小さな町。二人は何かにつけて諍いを起こすが、それでも大の幼なじみ…。 “馬面”で知られる俳優フェルナンデルを代表する喜劇で、厭世的なドラマの印象で語られがちなデュヴィヴィエの軽快な一面が見られる。

'53(監)ジュリアン・デュヴィヴィエ(脚)ジョヴァンニ・グアレッキ(脚)ルネ・バルジャヴェル(脚)ニコラ・エイエ(脚)ヴィジリオ・マルキ(脚)アレクサンドロ・チコニーニ(脚)フェルナンデル、ジノ・チェルヴィ、シルヴィオ、ヴェラ・タルキ、フランコ・インテルレンギ

13 6/13(火)3:00pm 6/23(金)7:00pm

青い麦 (108分・35mm・白黒)
LE BLÉ EN HERBE

ブルターニュ半島でひと夏を過ごす少年と少女の幼い恋の前に、年上の夫人が出現する。コレットの繊細な描写が踏まえられ、オーランシュ=ポストのコンビが書いた文芸映画の中でも、爽やかな印象を残す一篇。妖艶な魅力のE・フィエールが圧倒的。

'53(監)クロード・オートン=ララ(脚)コレット(脚)ジャン・オーランシュ、ピエール・ポスト(脚)ロベール・ルフェヴール(脚)マックス・ドゥーイ(脚)ルネ・クロエック(脚)エドウィー・ジュ・フィエール、ニコル・ベルジェ、ピエール=ミシェル・ベック、ルイ・ド・フネス

14 6/13(火)7:00pm 7/1(土)1:00pm

悪魔のような女 (117分・35mm・白黒)
LES DIABOLIQUES

横暴な寄宿学校の校長を、その妻と愛人の女教師が共謀し、溺死事故に見せかけて殺害するが…。合作ミステリー作家、ボワロー=ナルスジャックの第1作を、サスペンス映画の第一人者クルーズーが、“見世物小屋的”とも評された鋭利な演出で映画化した。S・シニョレの悪女ぶりが絶品。

'54(監)アンリ=ジョルジュ・クルーズー(脚)ピエール・ボワロー、トマ・ナルスジャック(脚)ジェローム・ジェロニミ(脚)アルマン・ティラール、ロベール・ジュイヤー(脚)レオン・バルザック(脚)ジョルジュ・ヴァン・パリシ(脚)シモーヌ・シニョレ、ヴェラ・クルーズー、ポール・ムーリス、シャルル・ヴァネル、ピエール・ラルケ

15 6/14(水)3:00pm 6/24(土)4:00pm

ナポレオン (119分・35mm・カラー) NAPOLEON

出世、結婚、政権掌握、外国侵略、二度の島流しという波乱に満ちたナポレオン・ボナパルトの一生を、極めて豪華な出演陣、そして緩みのない語りで見せるサンヤ・ギトリお得意の歴史絵巻。ナポレオンの人生の語り部となる外交家タレインの役はギトリ自らが握った。

'55(監)サヤ・ギトリ(脚)ピエール・モンタゼル(脚)ルネ・ルヌー(脚)ジャン・フランセ(脚)ダニエル・ジュラン、レイモン・ベルグラン、ミ歇尔・モルガン、サヤ・ギトリ、ダニエル・ダリュー、イヴ・モンタン、ジャン・マレー、マリア・シェル、エーリック・フォアン・シュトロハイム、オーソン・ウェルズ、ミシュリーヌ・ブレル、ピエール・ブラスール、セルジュ・レジアニ

16 6/14(水)7:00pm 6/29(木)3:00pm

居酒屋 (116分・35mm・白黒) GERVAISE

自然主義文学の最高峰ゾラの長大な原作を、『鉄路の闘い』(1945年)などリアリズムの路線でも定評のあるルネ・クレマンが映画化した。19世紀の底辺社会が忠実に再現され、救いがたい男たちに翻弄される女の悲劇劇が重々しく築き上げられる。洗濯場での壮絶な喧嘩のシーンなど、M・シェルの熱演に圧倒される。

'56(監)ルネ・クレマン(脚)エミール・ゾラ(脚)ジャン・オーランシュ、ピエール・ポスト(脚)ロベール・ジュイヤー(脚)ポール・ベルトラン(脚)ジョルジュ・オーリック(脚)マリア・シェル、フランソワ・ベリエ、アルマン・メストラル、シュジョードレール

17 6/15(木)3:00pm 6/27(火)7:00pm

スパイ (126分・35mm・白黒) LES ESPIONS

閑古鳥の鳴いていた郊外の病院に、一人の男をかかまけてほしいとの依頼が入る。やがて、安価な原子爆弾の製造法を編み出した科学者をめぐる国際的なスパイ戦へと展開、不条理と不安感の入り交じるサスペンス劇へとなだれ込む。クルト・ユルゲンズ、ピーター・ユスティノフが国際的なスターが集合した。

'57(監)アンリ=ジョルジュ・クルーズー(脚)エゴン・ホストフスキー(脚)ジェローム・ジェロニミ(脚)クリスチャン・マトラス(脚)ルネ・ルヌー(脚)ジョルジュ・オーリック(脚)クルト・ユルゲンズ、ピーター・ユスティノフ、0・E・ハッセ、サム・ジャック、ヴェラ・クルーズー

18 6/15(木)7:00pm 7/1(土)4:00pm

リラの門 (98分・35mm・白黒)
PORTE DES LILAS

巨匠クレール最後の長篇で、題はパリ東端にある下町の地名。お人好しの飲んだくれとギター弾きの“芸術家”が逃亡中の強盗をかまけて世話を焼く。戦前期クレールの面影を残す庶民劇が、ヌーヴェル・ヴァーグ前夜に最後の輝きを見せた。シャンソン界の異形ブラッサンがギターを抱えて主演、自作の歌を披露する。

'57(監)ルネ・クレール(脚)ルネ・ファレ(脚)ジャン・オーレル(脚)ロベール・ルフェヴール(脚)レオン・バルザック(脚)ジョルジュ・ブラッサン(脚)ピエール・ブラスール、ジルジュ・ブラッサン、アンリ・ヴィダル、ダニー・カレル、レイモン・ビュシエール

19 6/17(土)4:00pm 6/30(金)3:00pm

可愛い悪魔 (122分・35mm・白黒)
EN CAS DE MALHEUR

『素直な悪女』(1956年)を製作し、ブリジット・バルドーをフランス新世代のセックス・シンボルに押し上げた若手プロデューサーのラウル・レイヴィが、今度は文芸映画の名スタッフを得てシムノンの原作に挑んだ。ジャン・ギャパン演じる高名な中年弁護士が、弁護を引き受けた無軌道な少女のとりこになり、破滅の道を歩む。

'58(監)クロード・オートン=ララ(脚)ジョルジュ・シムノン(脚)ジャン・オーランシュ、ピエール・ポスト(脚)ジャック・ナール(脚)マックス・ドゥーイ(脚)ルネ・クロエック(脚)ブリジット・バルドー、ジャン・ギャパン、エドウィー・ジュ・フィエール、フランコ・インテルレンギ

20 6/16(金)3:00pm 7/2(日)4:00pm

顔のない眼 (88分・35mm・白黒)
LES YEUX SANS VISAGE

顔の皮膚を損傷した娘のため、外科医の父親が、若い女を誘拐してはその皮膚を娘に移植する。グロテスクな植皮手術も生々しいが、名手シュフタンの撮影を得て、恐怖と詩性が見事に共存するフランジュの怪奇映画。白い仮面をつけたE・スコップの悲しげな佇まい、そして人形を思わせるか細い肢体に惹きつけられる。

'60(監)ジョルジュ・フランジュ(脚)ジャン・ルドン(脚)ピエール・ボワロー、トマ・ナルスジャック、ピエール・ガスカル、クロード・ソーテ(脚)イヴ・シュフタン(脚)オーギュスト・カブリエ(脚)リス・ジャール(脚)アリダ・ヴァリ、ピエール・ブラスール、エディット・スコップ、ジュリエット・メニエル、フランソワ・ゲラン

21 6/16(金)7:00pm 6/28(水)3:00pm

雨のしのび逢い (93分・35mm・白黒)
MODERATO CANTABILE

女性殺人事件の現場でひとりの労働者と知り合った社長夫人が、愛のない閉塞した生活から脱出しようとはがく。デュラスの名作小説『モデラート・カンタービレ』を、英国演劇界の俊英ブルックがややメロドラマ性を加味しつつ映画化、ジャンヌ・モローが虚ろな目つきの有閑マダムを演じ切った。

'60(脚)ピーター・ブルック(脚)マルグリット・デュラス(脚)ジェラルド・ロジャール(脚)アルマン・ティラール(脚)ジャン・アンドレ・アントニオ・ディアベリ(脚)ジャンヌ・モロー、ジャン・ポール・ベルモン、ディディエ・オードバン、ヴァレリー・ドブジンスキ

22 6/17(土)1:00pm 6/28(水)7:00pm

セーヌの詩 (31分・35mm・白黒)
LA SEINE A RENCONTRÉ PARIS

原題「セーヌがパリに出会った」の通り、セーヌ川からの視線でパリ市民の穏やかな日常を捉えた映画詩。アカーディオンの旋律とジャック・プレヴェールの書いたナレーションに乗せて、持ち前のリズム感を発揮したオランダの記録映画作家イヴェンスによるパリ讃歌。

'57(監)ヨリス・イヴェンス(脚)ジョルジュ・サドゥール(脚)アンドレ・ドゥメートル、フィリップ・フラン(脚)フィリップ・ジュラール(脚)セルジュ・レジアニ

ジャンヌ・ダルク裁判 (64分・35mm・白黒)
PROCÈS DE JEANNE D'ARC

ジャンヌ・ダルク伝説には数多くの映画化があるが、その歴史でもとりわけ異彩を放つ一本。合戦の場面は一切なく、捕えられたジャンヌを映し出した固定ショットによる裁判場面が全体のほとんどを成す。極限の禁欲性のなかに官能にじみ出るロベール・プレッソンの傑作。ジャンヌ役のフロランヌ・カレは、その後フロランヌ・ドゥレの名で小説家として活躍している。

'62(監)ロベール・プレッソン(脚)オンス=アンリ・ビュレル(脚)ピエール・シャルボニエ(脚)フランシス・セリグ(脚)フロランヌ・カレ、ジャン・クロード・フルノー、ロジェ・オノラ、マルク・ジャキエ、ミ歇尔・エリュベル

23 6/18(日)1:00pm 6/29(木)7:00pm

いぬ (108分・35mm・白黒) LE DOULOS

フランスでも犯罪映画を得意とするメルヴィルの秀作。強盗計画が失敗し、親友を警察の「いぬ(=密告者)」ではないかと疑うギャングたち。ベルモンド演じる謎めいた主人公をめぐって犯罪者たちの焦燥が描かれる。主人公が警察で尋問される長いワンショットのシーンは、メルヴィル本人も自信の演出だったという。

'63(監)ジャン=ピエール・メルヴィル(脚)ピエール・ルズー(脚)ニコラ・エイエ(脚)ダニエル・ゲレ(脚)ポール・ミズラキ(脚)ジャン=ポール・ベルモンド、セルジュ・レジアニ、ジャン・ドザイ、ミ歇尔・ピコリ、モニク・エネシー、ファビエンヌ・ダリ

24 6/18(日)4:00pm 6/30(金)7:00pm

立派な詐欺師 (22分・35mm・白黒)
LE GRAND ESCROC

オムニバス映画『世界詐欺物語』の「モロッコ篇」として製作されながら、単独で公開されたゴダールの一篇。貧乏人に施しをするため贖金を作る女に、ゴダール作品としては『勝手にしやがれ』(1959年)以来のジーン・セバーク。

'64(監)ジャン=リュック・ゴダール(脚)ラウル・クタール(脚)ミ歇尔・ルグラン(脚)ジーン・セバーク、シャルル・デネル、ラズロ・サボ

虎は新鮮な肉を好む (81分・35mm・白黒)
LE TIGRE AIME LA CHAIR FRAÎCHE

トルコへの戦闘機の輸出をめぐるフランスの諜報員“虎”とスパイ団が入り乱れるアクション映画。「007」シリーズ風の題材を茶目つきある演出でさばいたのは、他のヌーヴェル・ヴァーグ監督たちと一線を画し、娯楽映画の多作へとかじを切ったクロード・シャブロール。主演のロジェ・アナンはスパイ映画「ゴリラ」シリーズで人気を取った俳優で、原作者フラジョも彼の変名。

'65(監)クロード・シャブロール(脚)アントワーズ・フラジョ(脚)ジャン・アラン(脚)ジャン・ラビエ(脚)ピエール・ジャンセン(脚)ロジェ・アナン、ダニエラ・ピアンキ、マリオ・ダヴィド、ロジェ・デュマ、マリア・モーバン



ジャンヌ・ダルク裁判

NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い
Invitation to French Cinema Classics: From the National Film Center Collection

月	火	水	木	金	土	日
5	1 3:00pm フランス前衛映画選集 (計102分)	3 3:00pm イタリアの麦藁帽子 (122分)	5 3:00pm 燈台守 (82分)	7 3:00pm 外人部隊 (104分)	9 3:00pm 商船テナシチー (73分)	11 1:00pm たそがれの女心 他 (計108分)
	2 7:00pm ぶどう月 (149分)	4 7:00pm のらくら兵 (130分)	6 7:00pm 巴里の暗黒街 (85分)	8 7:00pm 最後の億万長者 (89分)	10 7:00pm ジェニイの家 (89分)	12 4:00pm 陽気なドン・カミロ 他 (計140分)
12	13 3:00pm 青い麦 (108分)	15 3:00pm ナポレオン (119分)	17 3:00pm スパイ (126分)	20 3:00pm 顔のない眼 (88分)	22 1:00pm ジャンヌ・ダルク裁判 他 (計95分) * 青山真治氏によるトークがあります	23 1:00pm いぬ (108分)
	14 7:00pm 悪魔のような女 (117分)	16 7:00pm 居酒屋 (116分)	18 7:00pm リラの門 (98分)	21 7:00pm 雨のしのび違い (93分)	19 7:00pm 可愛い悪魔 (122分)	24 4:00pm 虎は新鮮な肉を好む 他 (計103分)
19	6 3:00pm 巴里の暗黒街 (85分)	9 3:00pm 商船テナシチー (73分)	8 3:00pm 最後の億万長者 (89分)	11 3:00pm たそがれの女心 他 (計108分)	4 1:00pm のらくら兵 (130分)	5 1:00pm 燈台守 (82分)
	3 7:00pm イタリアの麦藁帽子 (122分)	7 7:00pm 外人部隊 (104分)	10 7:00pm ジェニイの家 (89分)	13 7:00pm 青い麦 (108分)	15 4:00pm ナポレオン (119分) * 梅本洋一氏によるトークがあります	2 4:00pm ぶどう月 (149分)
26	12 3:00pm 陽気なドン・カミロ 他 (計140分)	21 3:00pm 雨のしのび違い (93分)	16 3:00pm 居酒屋 (116分)	19 3:00pm 可愛い悪魔 (122分)	14 1:00pm 悪魔のような女 (117分)	1 1:00pm フランス前衛映画選集 (計102分)
	17 7:00pm スパイ (126分)	22 7:00pm ジャンヌ・ダルク裁判 他 (計95分)	23 7:00pm いぬ (108分)	24 7:00pm 虎は新鮮な肉を好む 他 (計103分)	18 4:00pm リラの門 (98分) * 武田潔氏によるトークがあります	20 4:00pm 顔のない眼 (88分)

展示室(7階)

企画展

生誕100周年記念
美術監督 水谷浩の仕事
Pioneering Art Director:
Hiroshi Mizutani at his Centenary

映画美術の草分けとして小津安二郎や豊田四郎、村田実の作品を担当し、後には溝口健二の国際的名声を支えた「美術監督」水谷浩(1906-71年)。そのデッサンや遺品、小道具を通して偉大なパイオニアの足跡と、映画における美術の仕事をご紹介します。



常設展

展覧会 映画遺産
-東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより-
The Japanese Film Heritage
- From the Non-film Collection of the National Film Center -

フィルムセンターが開設から50年の間に収集してきたコレクションの中から特に珍しい初期の映画機械や映画人の遺品などを一堂に集めて展示する一方、過去に行われた映画の発見・復元の成果を紹介しながら、日本の映画保存運動の軌跡を振り返ります。

4月4日(日)-5月28日(日) 6月6日(日)-9月24日(日)

開室=休館日以外の火曜日-日曜日

(午前11時-午後6時30分/入場は午後6時まで)

料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円)/大学生・シニア70円(40円)/高校生40円(20円)

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 小・中学生は無料です。

* 大ホールで映画を観覧になった方は、当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

* シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示下さい。

トーク・イベント

▶ 6月17日(土)1:00pm

『ジャンヌ・ダルク裁判』他上映終了後

ゲスト: 青山真治氏(映画監督)

▶ 6月24日(土)4:00pm

『ナポレオン』上映終了後

ゲスト: 梅本洋一氏(横浜国立大学教授, フランス映画・演劇)

▶ 7月1日(土)4:00pm

『リラの門』上映終了後

ゲスト: 武田潔氏(早稲田大学教授, フランス映画)

図書室カレンダー

赤字は休室日

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

図書室(4階) 開室=休館日以外の火曜日-土曜日
(午後0時30分-午後6時30分/入室は午後6時まで)

2階受付では、「NFCニュースレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



東京日仏学院での共催企画

フランス古典映画への誘い

パリのアバルトマンから見たフランス映画史

7月7日(金)-7月31日(日)

* 金曜日・土曜日・日曜日の上映となります。

会場: 東京日仏学院 エスパス・イマージュ

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター

東京日仏学院

上映作品:

『牝犬』(1931年, ジャン・ルノワール 監督)

『夢を見ましょう』(1936年, サシャ・ギトリ監督)

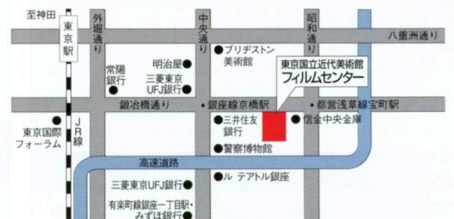
『エドワールとキャロリーヌ』(1951年, ジャック・ベッケル監督)

『私を忘れて』(1995年, ノエミル・ヴォフスキ監督) など

* 詳細は東京日仏学院発行のチラシ、同学院のホームページをご確認ください。



夢を見ましょう



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ:

<http://www.momat.go.jp/>

NFC携帯電話ホームページ:

<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

